
Love for you

かずは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Love for you

【ZPDF】

Z8652D

【作者名】

かずは

【あらすじ】

初の平和短編小説です。 平次、アタシ、今度こそ言つて決めたわ。たとえ、幼なじみという仲さえ壊れてしまつても。ハッピーハンドです。ご安心下さい。

(前書き)

以前投稿したものに多少修正加えました。

現在、これに色々なモノを付け加え、連載小説に書き直そつか悩み中です。

感想や評価にそれについて意見も言つていただけると幸いです。

桜の蕾がふつくらと膨らんで、今にもその淡いピンク色の花びらが花開こうとしている。

平次と二人、桜並木を歩いてる。
まあ、一人やつて言つても、平次は一人で前を歩いてるんやけど。
もうすぐ卒業や。卒業したらアタシと平次は一緒に東京の大学に進学する。

ということは、大阪から初めて離れるわけで。アタシも平次も東京に行くことはあっても、大阪を離れて住むことはない。

「もうすぐやなあ…」

アタシは桜の木を見上げながら呟いた。

「何がや?」

平次は何か考え事をしてるようで。いつもの平次じゃあらへんようやつた。珍しい。

「何がつて……平次、あさつては卒業式やで」

素直にアタシは平次に言った。せやけど、やつぱり平次はぼーっとしてて。

「……そうやつたな」

平次は顔をしかめる。何かあつたんやろか。

「そやつたなつて……平次疲れてるんぢやうん？大丈夫？」

「大丈夫や……」

「和葉」

急に平次がこっちを向いた。アカン、アタシ、ドキドキするやないか。

「和葉、オレ、オマエに言わなアカン」ことがあんねん」

何やうか……？まさか、彼女でも出来たんやうか。こじんとこ最近は、平次の様子がおかしい。

ずっと不安やつた。このままアタシはずつと平次に気持ちを伝えられないままなんやうか……

三年になる前に工藤君は帰つて来て、蘭ちゃんと工藤君はやつと恋い人同士になつた。ずっと幼なじみで……でもいつもお互いのことを1番に考えてて。

工藤君は蘭ちゃんをずっとほつたらかして、どんな人なんかつて思つてた。

でもな、工藤君はずつと口ナン君として蘭ちゃんのことをやつてたんや。

何も知らへんかつたや、アタシは。

そして

アタシは今も、平次に自分の気持ち伝えてへん。

工藤君と蘭ちゃんみたいに、アタシも素直になれたら

何度もそう思つたことか。

でもな、アタシには出来へんかった。平次がどんな風にアタシのことを考えててくれるんか分からへんから、怖いねん。

蘭ちゃんは応援してくれるけど……でもな、アタシは弱虫やねん。アタシは何も言えへんまま、また一つ節目を迎えてしてんや。

でもな、今度こそは。伝えるつて決めたんや。たとえ……平次が今から何を言つたとしても。

「何?」

アカン、アタシの声、震えとる。

でも、でもな……自分に負けへん。何があらつとも……平次と幼なじみの仲さえも壊れてしまつても……絶対に言つんや。

「あのな……オレ」

やつぱり……平次は……

「和葉が好きや」

い、今何て言つたん……？平次。夢やあらへんよね……？

アタシは平次の顔を見上げる。

そしたら、平次の頬が真っ赤に染まつてた。アタシの見間違いやない……んよね？

「う、嘘……」

声が震えどる……アカン、涙までよつたわ……

「かつ、和葉！？悪かつた、オレが悪かつたわ！そやから泣かんとき……今言つたこと……忘れてかまへんから……」

平次は、心底驚いてるやつやつた。でも、アタシは謝つて欲しいんやあらへん……

「……違つたよ……平次」

「は？」

「アタシもずっと……」

「……え……」

「ずっと平次のことが好きやつてん……」

やつと……やつと聞えた、アタシの気持ち。

「和葉……ありがとう」

「すうと……すうと、」の口を夢見てた……アタシは。

「和葉……」

「何なん?」

「はよいぐでー」

平次の楽しそうな声が遠くからした。……ん?遠くから?

「へつー?」

いつの間にか平次はアタシの何メートルも先に行つてた。

「はよせんと置いていくで、アホ」

「アホは余計やつー」

アタシは平次の所まで走る。いつもなら一人で行つてまう平次が待つてくれた。

蕾しかないはずの桜並木に、一つだけ……アタシ達を祝福してくれてるよう花を開いている桜が見えたような……そんな気がした。

(後書き)

こんにちは。
かずはです。

前書きにもありましたようにこの場面に至るまでやその後等を加えた連載小説に書き直すか悩んでいます。
もしよければ意見お願いします。

また、YAKUSHOKUの方ですが…暗号が一つも届かないために
休載中です。
もし、心やさしい方がいらっしゃいましたらメッセージページによろしく
お願いします。
では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8652d/>

Love for you

2010年10月20日19時23分発行